

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第31週 (7/27-8/2) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		31週	30週	29週	28週
小児科		18	18	17	18
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ*		28	28	27	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			7/27-8/2	7/20-7/26	7/13-7/19	7/6-7/12	7/20-7/26
			31週	30週	29週	28週	30週
小児科	RSウイルス感染症		2	1	0	0	7
	咽頭結膜熱		6	4	2	14	103
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		49	53	55	55	310
	感染性胃腸炎		67	52	81	105	408
	水痘		2	1	3	5	33
	手足口病	◎★★	246	218	217	137	993
	伝染性紅斑	○	28	21	26	29	122
	突発性発しん		16	17	26	15	71
	百日咳	○	3	1	0	3	2
	ヘルパンギーナ	○	104	85	42	39	647
流行性耳下腺炎		8	1	6	14	66	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	0	1	0	3
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		1	1	3	3	26
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	画像診断等	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出
結核	女性	50歳代	髄液検査	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	女性	70歳代	病原体の検出等	薬剤耐性アシネト バクター感染症	男性	10歳代	菌の検出、耐性の確認 並びに起因菌の判定
腸管出血性 大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認	-	-	-	-

・結核4件(133)、腸管出血性大腸菌感染症1件(8)、レジオネラ症1件(7)、アメーバ赤痢1件(4)、急性脳炎1件(6)、  
薬剤耐性アシネトバクター感染症1件(1)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第31週のコメント

<手足口病> 前週より増加し13.67となり、過去10年の同時期と比べると最多となった。流行発生警報開始基準値は上  
回ったまま。

<伝染性紅斑> 前週より増加し1.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。

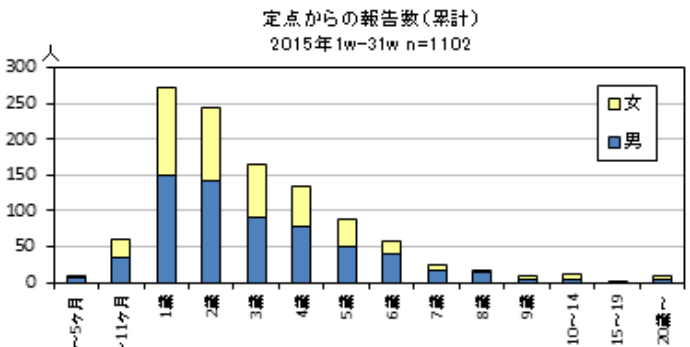
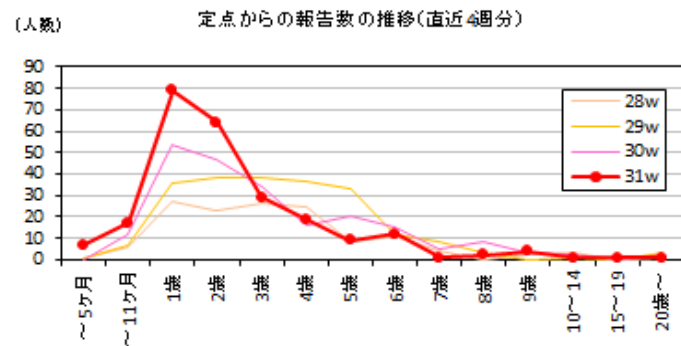
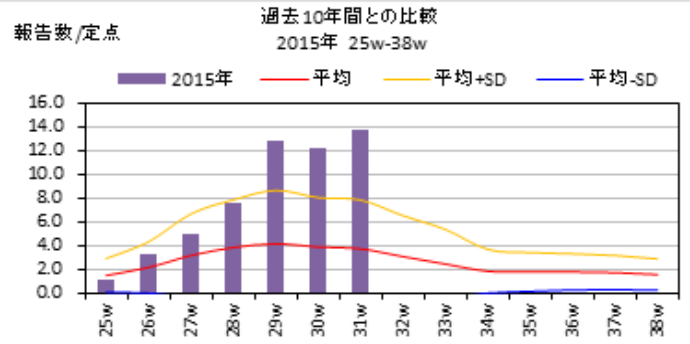
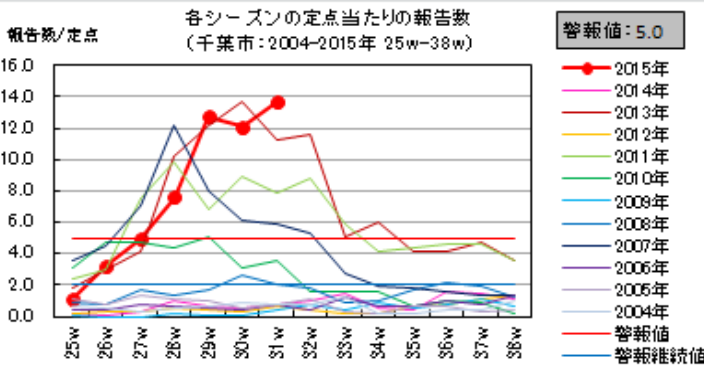
<百日咳> 前週より増加し0.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し5.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

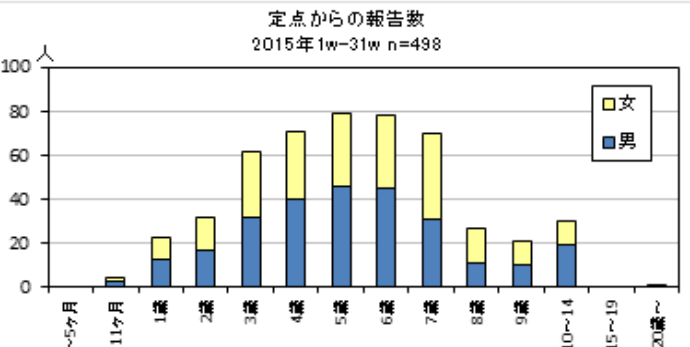
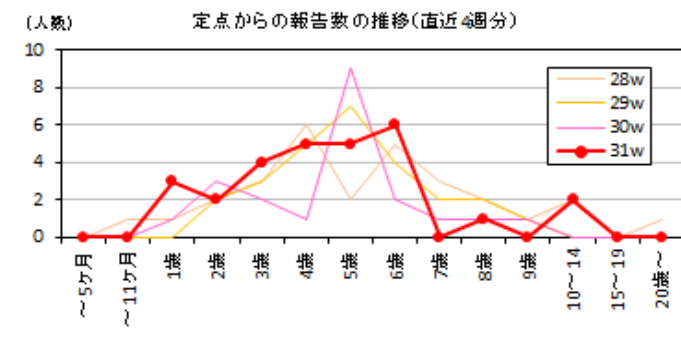
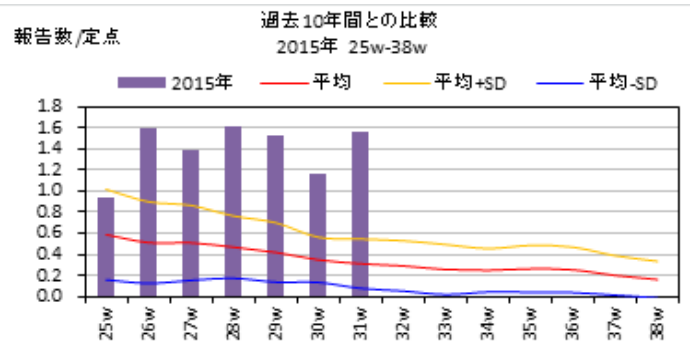
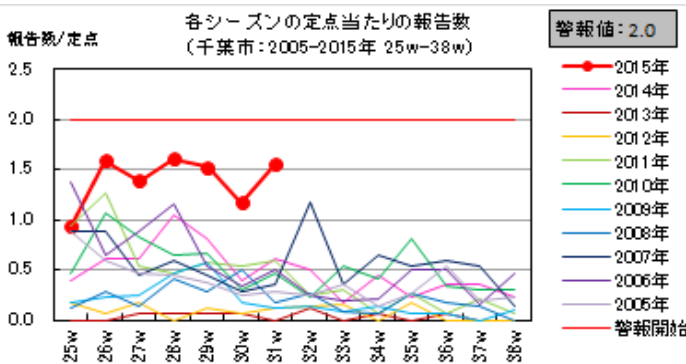
＜手足口病＞

全国レベルの第30週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、石川県、埼玉県、福島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第31週は前週から再び増加し13.67となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は上回ったままです。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、若葉区(23.0/定点)が大幅に増加し最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他区では花見川区、中央区、緑区で1歳、他は2歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第31週までの累積報告数(n=1102)によると、性別では男性が57.4%(633名)、女性が42.6%(469名)で、年齢階級別では1歳(24.6%:271名)、2歳(22.1%:244名)、3歳(14.9%:164名)の順に多くなっています。



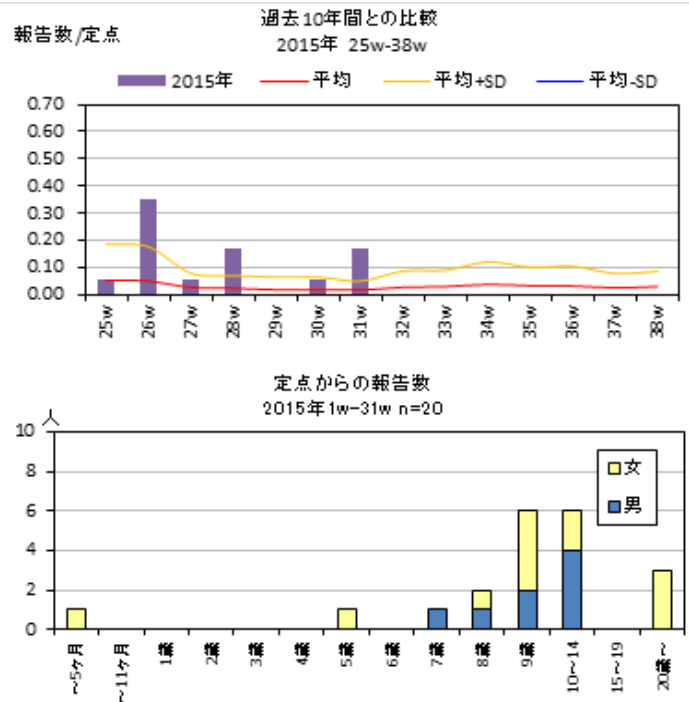
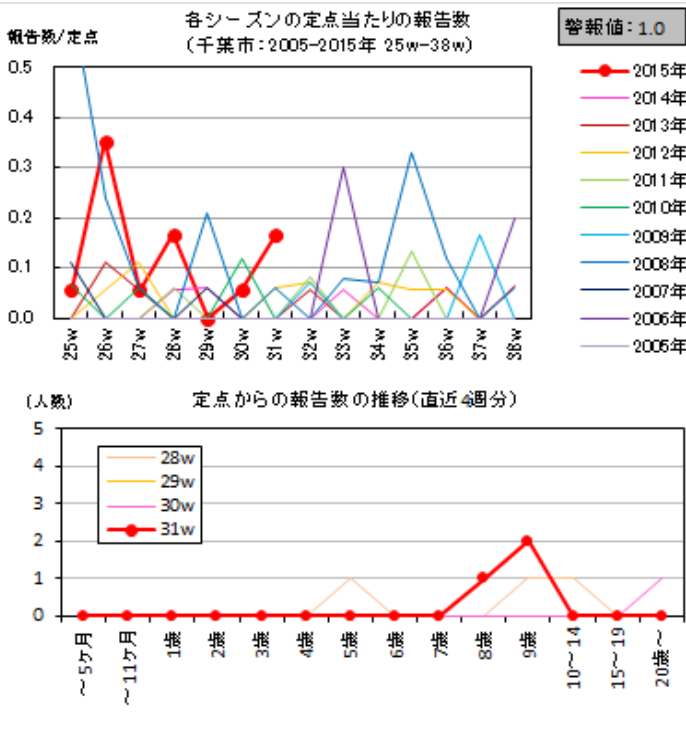
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第30週現在は、過去8年の同時期と比べ最多となっています。都道府県別では、大分県、長野県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第31週は前週から増加し1.56となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままです。区別の発生状況は、稲毛区(7.0/定点)で大幅に増加し流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回ったままで最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第31週までの累積報告数(n=498)によると、性別では男性が53.6%(267名)、女性が46.4%(231名)で、年齢階級別では5歳(15.9%:79名)、6歳(15.7%:78名)、4歳(14.3%:71名)の順に多くなっています。



## <百日咳>

全国レベルの第30週現在は、過去8年の同時期と比べ少なくなっています。都道府県別では、滋賀県、鳥取県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2015年第31週は前週から引き続き増加し0.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、美浜区(0.5/定点)で最多で、同区の8歳及び9歳で発生報告がありました。2015年第1週から第31週までの累積報告数(n=20)によると、性別では男性が40.0%(8名)、女性が60.0%(12名)で、年齢階級別では9歳及び10歳代前半(共に30.0%:6名)、20歳以上(15.0%:3名)の順に多くなっています。



## <ヘルパンギーナ>

全国レベルの第30週現在は、過去8年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、三重県、山梨県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第31週は第28週から連続して増加しており5.78となり、流行発生警報開始基準値(6.0/定点)に近付きました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(17.0/定点)で大幅に増加し流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区(7.67/定点)及び緑区(6.26/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2015年第1週から第31週までの累積報告数(n=294)によると、性別では男性が48.0%(141名)、女性が52.0%(153名)で、年齢階級別では1歳(29.9%:88名)、2歳(20.4%:60名)、3歳(16.0%:47名)の順に多くなっています。

